

『源氏物語』の心を読む  
～野分・行幸の巻～

● 開講計画 ● (全12回／各90分)

● 受講料 ● 19,200円(教材費別)

● 定員 ● 35名

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	4/8	水	夕霧は、紫の上を垣間見る
2	4/15	水	台風が通過し、夕霧は父源氏の邸宅を見舞う
3	4/22	水	夕霧、明日の君を訪ね、玉鬘に寄り添う源氏を見て、衝撃を受ける
4	5/13	水	夕霧は、恋人の雲居の雁や惟光の女に台風見舞いを書く
5	5/20	水	玉鬘は、大原の行幸を見物し、帝の麗姿に目をとめる
6	5/27	水	源氏は、玉鬘の成人祝いをして、実父内大臣に会わせる
7	6/3	水	源氏は、玉鬘の祖母大宮に玉鬘を養育していることを話す
8	6/10	水	源氏は、大宮の仲介で、内大臣に玉鬘のことを明かす
9	6/17	水	玉鬘は、実父内大臣との対面を果たす
10	7/1	水	玉鬘の裳着。実父の内大臣が、腰結役を務める
11	7/8	水	玉鬘の求婚者たちの動揺
12	7/15	水	玉鬘を妬む近江の君、笑いものにされる

## 作品に感動するひとときを、心の糧にしましょう

はじめに、活字のテキストをわかりやすい現代語にして解説します。その後で、くずし字の原文を皆さんと一緒に大きな声で斉読します。

源氏は政治家として太政大臣にまで登りつめ安定していますが、家庭には年頃の長男夕霧と、多少婚期を逃した養女の玉鬘をかかえ心配ごとの多い中、野分(台風)に見舞われた後の情勢を夕霧の視線で描く巻が、「野分」です。夕霧は、つね日頃見ることが許されなかった父の第一夫人紫の上を覗き見して、素晴らしい方だと思い始めます。さらに、台風を見舞う父のお供をして、玉鬘に寄り添う父の不審な態度や夫人方を観察していきます。

「行幸」の巻では玉鬘の視線で、源氏を始め、実父内大臣や帝、求婚者の螢兵部卿の宮、鬚黒大将など男性たちの観察をしています。そして玉鬘は、とうとう成人式の儀式の裳の腰紐の結び役を頼まれた実父との対面を果たします。

講師

本学名誉教授

うめの こ  
梅野 きみ子

## テキスト・教材

初回教室にてテキストを販売します。お持ちでない方は、講座申込み時に注文してください。テキスト以外に、他の本の持込み可。

①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 野分』

校注者 今泉忠義 新典社 630円+税

②宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 行幸』

校注者 南波浩 新典社 1,050円+税

③仮名変体集

編者 伊地知鐵男 新典社 350円+税

④新潮日本古典集成『源氏物語 四』

校注者 石井・清水 新潮社 3,888円+税

※①②は必須、③④は任意 ※2020年1月現在